

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和 年 月 日

協議会名: 瑞浪市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
【補助対象となる事業者名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運行(航)区間、整備内容等を記載(陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費等及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保維持事業において離島航路構造改革補助(調査検討の経費を除く。)を受けている場合は、その旨記載)】	【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】	A・B・C評価 【計画に基づく事業が適切に実施されたかを記載。計画どおり実施されなかった場合には、理由等記載】	A・B・C評価 【計画に位置付けられた定量的な目標・効果が達成されたかを、目標ごとに記載。目標・効果が達成できなかった場合には、理由等を分析の上記載】	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか(方向性又は具体的な内容)を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載
平和コーポレーション株式会社	日吉＝明世ルート	デマンド交通の利用促進に取り組んだ。 中山道を訪れる観光客へデマンド交通をPRするためのチラシを新たに作成し、駅や中山道沿線の施設に配架した。また、瑞浪市観光ガイドマップにもデマンド交通の利用案内を掲載し、利用者の増加を図った。 運転免許証自主返納者への支援を拡充し、自家用車から公共交通機関への利用転換を促進した。	A 計画どおり事業は実施された。	C 1日の稼働便数は6便中2. 20便、利用人数は3. 14人で、目標値(1日4便、利用人数8人)に対し、稼働便数、利用人数ともに達成できなかった。主に高齢者が通院や買い物の足として利用しているため、移動中及び目的地での新型コロナウイルスの感染を危惧し、利用機会を減らしていることが理由として考えられる。	①引き続き、制度周知に努める。交通安全協会や警察等との連携を強化し運転免許証自主返納支援制度を推進することで、自家用車から公共交通機関への利用の転換を促進する。また、観光客へのデマンド交通のPRは中山道への集客事業と連動させる等、効果的な広報手段を検討する。 ②要望の集約・対応に取り組み、利用者の増加に繋がるような運行内容への改善を図る。

平和コーポレーション株式会社	大湫＝日吉東部ルート	<p>デマンド交通の利用促進に取り組んだ。</p> <p>中山道を訪れる観光客へデマンド交通をPRするためのチラシを新たに作成し、駅や中山道沿線の施設に配架した。また、瑞浪市観光ガイドマップにもデマンド交通の利用案内を掲載し、利用者の増加を図った。</p> <p>運転免許証自主返納者への支援を拡充し、自家用車から公共交通機関への利用転換を促進した。</p> <p>大湫町の広報紙にデマンド交通の毎月の利用状況と利用を呼び掛ける記事を掲載し、周知を行った。</p>	A	計画どおり事業は実施された。	C	<p>1日の稼働便数は6便中1.51便、利用人数は2.25人で、目標値(1日2便、利用人数4.5人)に対し、稼働便数、利用人数ともに達成できなかった。主に高齢者が通院や買い物の足として利用しているため、移動中及び目的地での新型コロナウイルスの感染を危惧し、利用機会を減らしていることが理由として考えられる。</p>	<p>①引き続き、制度周知に努める。交通安全協会や警察等との連携を強化し運転免許証自主返納支援制度を推進することで、自家用車から公共交通機関への利用の転換を促進する。また、観光客へのデマンド交通のPRは中山道への集客事業と連動させる等、効果的な広報手段を検討する。</p> <p>②要望の集約・対応に取り組み、利用者の増加に繋がるような運行内容への改善を図る。</p>
平和コーポレーション株式会社	釜戸ルート	<p>デマンド交通の利用促進に取り組んだ。</p> <p>デマンド交通登録者へのアンケート調査で集約した要望に基づき、新たな乗降場所の新設及びルートの延伸を行うことで、周辺住民の利用機会の増加と新規利用者の掘り起こしを図った。</p> <p>運転免許証自主返納者への支援を拡充し、自家用車から公共交通機関への利用転換を促進した。</p>	A	計画どおり事業は実施された。	C	<p>1日の稼働便数は6便中1.90便、利用人数は2.93人で、目標値(1日2便、利用人数4.5人)に対し、稼働便数、利用人数ともに達成できなかった。主に高齢者が通院や買い物の足として利用しているため、移動中及び目的地での新型コロナウイルスの感染を危惧し、利用機会を減らしていることが理由として考えられる。</p>	<p>①引き続き、制度周知に努める。交通安全協会や警察等との連携を強化し運転免許証自主返納支援制度を推進することで、自家用車から公共交通機関への利用の転換を促進する。</p> <p>②要望の集約・対応に取り組み、利用者の増加に繋がるような運行内容への改善を図る。</p>

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和 年 月 日

協議会名:	瑞浪市地域公共交通会議
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>当市の公共交通の構築にあたっては、次の方針で取り組んでいる。</p> <p>(1)交通不便地域の解消 昼間の買い物や通院目的で利用できるコミュニティバスが通っていない地域を極力解消する。</p> <p>(2)公共交通ネットワークの構築 市内の公共交通ネットワークを一体的にとらえ、維持、活性化させる観点から、各公共交通の連携を強化する。</p> <p>(3)サービス水準の維持、向上 地域ごとに、各公共交通のサービス水準をできるだけ維持することとする。 デマンド交通の運行(対象事業)は交通不便地域を解消し、地域間公共交通を補完する目的がある。</p>